

令和6年度

動物実験に関する自己点検・評価報告書

国立大学法人京都大学

2025年7月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定）（最新改正：令和7年1月1日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（以下「飼養保管基準」という。）と文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」という。）に則って、京都大学における動物実験の実施に関する規程（以下「学内規程」という。）が定められており、必要に応じて最新の情報を反映させるため適宜改正して運用されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・全学動物実験委員会名簿 ・部局動物実験委員会名簿
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管基準及び基本指針に適合した動物実験委員会が置かれている。 全学委員会及び部局委員会の大半が、基本指針に定める3種のカテゴリーの委員によって構成されている。 全学委員会及び部局委員会の開催時には、基本指針が定める3種のカテゴリーの委員が必ず審議に参加するよう日程調整、参加方法を考慮している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 □ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験の実施に必要な動物実験規程等及び各種申請書様式等が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 □ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・ 京都大学組換えDNA実験等安全管理規程 ・ 京都大学組換えDNA実験等安全管理規程施行細則 ・ 京都大学化学物質管理規程 ・ 京都大学における放射性同位元素等の規制に関する規程 ・ 京都大学における病原体等の管理に関する規程
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 安全管理に注意を要する動物実験の実施に関連する様式や手続きを整備している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ■ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管施設等の設置と廃止に関する要件が規程等に定められており、確認に必要な各種書式等も適正に定められている。また、飼養保管施設には標準作業手順書として部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等が定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

・ 部局相互で現地調査（ガバナンス等に関するヒアリング及び飼養保管施設・実験室の視察）を実施し、推奨する管理方法や注意すべき点を共有した。 ・ 販売終了となった麻酔薬の代替薬や品薄時の対応について、委員会で意見交換を行い、最新の情報を共有した。 ・ 国立大学法人動物実験施設協議会の公開している雛形を参考に、規程の一部改正を実施した（令和7年1月1日施行）。 ・ 動物実験計画書等の申請書類を WEB 上で申請し、審査も行うことができるシステム導入に向けて準備中である（令和8年度より導入予定）。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会の活動状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 京都大学動物実験委員会議事要旨（令和6年7月29日） 京都大学動物実験委員会議事要旨（令和7年3月25日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 京都大学における動物実験の実施に関する規程等に基づいて、学長の諮問機関として委員会を開催し、関連事項に関して審議した。 ・規程の改正案について審議した。 ・動物実験の適正性に係る現地調査の実施及び結果報告について審議した。 ・WEB 申請システムの導入について共有した。 ・動物実験計画書や施設の変更届の記載について意見交換し、適切な記載方法を共有した。 ・使用期限が切れた麻酔薬についての Q&A の記載を改訂した旨を共有した。 ・麻酔薬が品薄となった場合の対応について共有した。
4) 改善の方針、達成予定時期 WEB 申請システムの導入（令和8年度）

2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 動物実験計画承認報告書 動物実験結果報告書 自己点検報告書（動物実験実施状況） 事故報告書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

<p>1) 評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>動物実験計画承認報告書</p> <p>動物実験結果報告書</p> <p>自己点検報告書（動物実験実施状況）</p> <p>動物実験施設飼養保管マニュアル</p> <p>緊急時対応マニュアル</p> <p>逸走時対応マニュアル</p> <p>緊急連絡先</p> <p>事故連絡票等</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>法令に適合した動物実験実施状況であることを確認した。以下の針刺し2件、動物による咬傷7件、飼育室での転倒2件、飼育室での熱中症1件、合計12件の事故等の報告があったため。</p> <p>内訳：医学研究科3件（動物による咬傷3件）、農学研究科1件（飼育室での転倒1件）、iPS細胞研究所3件（針刺し1件、動物による咬傷2件）、高等研究院1件（動物による咬傷1件）、ヒト行動進化研究センター4件（針刺し1件、動物による咬傷1件、飼育室での転倒1件、飼育室での熱中症1件）</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>事故が増加していることから、実験実施前の注意喚起を徹底し、飼養保管施設、実験室の安全を点検し、危険な箇所があれば改善する。</p>

4. 実験動物の飼養保管状況

<p>1) 評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>自己点検報告書（飼養保管施設管理状況）</p> <p>自己点検報告書（実験室管理状況）</p> <p>動物実験施設飼養保管マニュアル</p> <p>緊急時対応マニュアル</p>

逸走時対応マニュアル 緊急連絡先 事故連絡票等
3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。) ヒト行動進化研究センターで、動物の逸走や従事者の事故に繋がるヒヤリハットが2件あったため。
4) 改善の方針、達成予定時期 各部局にて制定されている行動指針やマニュアル等の遵守を徹底する。逸走防止策として、作業手順の見直し、施設の構造の改善、逸走防止装置について見直し等を実施する。また改善の効果を検証し、さらなる強化を図る。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 飼養保管施設設置承認報告書 実験室設置承認報告書 自己点検報告書 (飼養保管施設管理状況) 自己点検報告書 (実験室管理状況)
3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。) 施設の設置時に規程が求める設置基準を満たしていることを委員会が確認しており、自己点検報告書 (飼養保管施設管理状況、実験室管理状況) の自己点検報告書の提出によって、適正に維持管理されていることを把握している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 教育訓練資料・スライド 京都大学動物実験教育訓練 e-Learning 受講履歴

<p>京都大学動物実験教育訓練 e-Learning 受講修了証 令和6年度京都大学実験動物管理セミナー受講履歴</p> <p>京都大学における動物実験教育訓練実施状況（令和6年度） （e-Learning 受講者数 969 人、それに加え、部局独自の講習会をヒト行動進化研究センターで4回開催 受講者数8人） 別紙1のとおり。</p> <p>令和6年度京都大学実験動物管理セミナー開催 「実験動物に関する法規と「実験動物管理者」の役割」、「動物実験施設の緊急時対応（災害対策）」、令和7年3月21（金）、講師：東北大学大学院医学系研究科附属動物実験施設（医用動物学分野）三好一郎教授、受講者数88人</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 教育訓練の実施記録等によって基本指針に則した教育訓練が実施されていることを確認した。また、実験動物管理者に日本実験動物学会の実験動物管理者等研修会受講を推奨した。また本学の京都大学実験動物管理セミナーを開催し、専門情報修得の機会を設けた。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。</p>

7. 自己点検・評価、情報公開

<p>1) 評価結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料 京都大学動物実験に関する自己点検・評価報告書、動物実験に関する検証結果報告書、「動物実験に関する情報公開」のホームページ。 https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/rule/ethic/arcku</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 大学のホームページに各年度の自己点検・評価報告書及び外部検証の結果報告書をはじめとして、京都大学における動物実験に関する情報を公開している。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。</p>

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

1) 京都大学における第6条第1号、第2号に掲げる動物実験委員会委員の構成

- ・第6条第1号に掲げる委員：教授14名、准教授4名
- ・第6条第2号に掲げる委員：准教授1名
- ・第6条第3号に掲げる委員：特定教授2名

別紙2のとおり。

2) 京都大学における第6条第4号に掲げる動物実験委員会委員の構成

- ・動物実験に関して優れた識見を有する者：教授11名、准教授4名、特定教授1名
- ・実験動物に関して優れた識見を有する者：教授3名
- ・その他学識経験を有する者：准教授1名、特定教授1名

別紙2（役割欄）のとおり。

3) 部局動物実験委員会の構成（全部局の合計数）

京都大学における動物実験の実施に関する規程第9条による部局動物実験委員会

教授64名、特別教授1名、特定教授2名、准教授42名、特定准教授2名、講師10名、
助教19名、特定拠点講師1名、特定研究員1名、技術職員3名、動物実験施設長1名、
事務長1名、事務職員2名、特定職員1名、学外者2名 合計152名

4) 京都大学における動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書の集計について
別紙3のとおり。

5) 動物種ごとの飼養数・実験動物使用数の集計について
別紙4のとおり。

動物実験教育訓練実施状況（令和6年度）

部局名	全学共通 e- Learning	左記以外の 講習会 参加人数	学共通e-Learning以外に開催した場合 の研修実施日・実施回数
文学研究科	6	0	
理学研究科	50	0	
医学研究科	311	0	
薬学研究科	105	0	
工学研究科	34	0	
農学研究科	80	0	
人間・環境学研究科	7	0	
情報学研究科	4	0	
生命科学研究科	38	0	
化学研究所	0	0	
医生物学研究所	29	0	
複合原子力科学研究所	14	0	
iPS細胞研究所	170	0	
野生動物研究センター	5	0	
ヒト行動進化研究センター	95	8	4回実施（6/4、6/6、6/13、7/9）
総合博物館	0	0	
フィールド科学教育研究センター	0	0	
国際高等教育院	0	0	
環境安全保健機構	1	0	
高等研究院	20	0	
合計	969	8	

京都大学動物実験委員会委員名簿

令和6年4月1日

		所 属	職 名	役割※	専門分野
1	1号	文学研究科	教授	①	実験心理学
2	2号	法学研究科	准教授	③	法理学
3	1号	理学研究科	教授	①	動物行動学、爬虫類学、自然史学
4	1号	医学研究科	教授	②	実験動物学、発生工学
5	1号	薬学研究科	准教授	①	薬剤学
6	1号	工学研究科	教授	①	先端医工学
7	1号	農学研究科	准教授	①	畜産資源学
8	1号	人間・環境学研究科	教授	①	運動医科学、内分泌代謝学
9	1号	情報学研究科	教授	①	生物環境情報学分野
10	1号	生命科学研究所	教授	①	内分泌代謝学
11	1号	化学研究所	教授	①	環境物質化学
12	1号	医生物学研究所	教授	②	実験動物学、分子生物学
13	1号	複合原子力科学研究所	教授	①	放射線腫瘍学、放射線生物学
14	1号	i P S細胞研究所	准教授	①	整形外科学、発生生物学
15	1号	野生動物研究センター	教授	①	比較認知科学
16	1号	総合博物館	教授	①	動物系統分類学
17	1号	フィールド科学教育研究センター	教授	①	魚類心理学
18	1号	ヒト行動進化研究センター	教授	②	ウイルス学、実験動物学
19	3号	国際高等教育院	特定教授	①	システムウイルス学
20	1号	環境安全保健機構 放射線管理部門	准教授	①	分子生物学、環境・農学、放射線影響
21	3号	研究推進部 研究規範マネジメント室	室長	③	研究倫理、研究規範

- ※ ① 動物実験に関して優れた識見を有する者
 ② 実験動物に関して優れた識見を有する者
 ③ その他学識経験を有する者

動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書集計表（令和6年度）

	動物実験計画書の審査のまとめ						動物実験 従事者数	飼養保管 施設の設 置状況	飼養保管 施設から 独立した 実験室
	許可件数				改訂後 許可件数	不許可・ 取下げ件 数			
	新規	変更	継続	合計					
文学研究科	10	0	10	20	3	0	16	2	3
理学研究科	9	18	7	34	9	0	108	12	8
医学研究科	95	38	331	464	83	0	1,799	18	88
薬学研究科	6	23	9	38	0	0	107	6	16
工学研究科	2	6	16	24	1	0	91	5	1
農学研究科	26	5	86	117	26	0	1,057	14	28
人間・環境学 研究科	4	1	6	11	0	0	44	2	4
情報学研究科	4	0	5	9	0	0	27	0	1
生命科学研究科	8	7	17	32	23	0	280	9	16
化学研究所	0	0	0	0	0	0	0	1	1
医生物学研究所	28	15	75	118	24	0	169	12	34
複合原子力科学 研究所	14	0	37	51	7	1	134	3	10
iPS細胞研究所	16	45	77	138	71	4	292	3	24
野生動物研究 センター	1	0	20	21	7	0	249	2	0
総合博物館	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フィールド科学教 育研究センター	0	0	5	5	0	0	39	1	1
ヒト行動進化研究 センター	37	22	52	111	77	8	560	1	29
国際高等教育院	1	0	0	1	0	0	2	0	1
環境安全保健機構	2	0	10	12	5	0	69	1	4
高等研究院	5	1	5	11	0	0	47	5	4
合計	268	181	768	1,217	336	13	5,090	97	274

主要な飼養保管施設の名称：医学研究科附属動物実験施設、医生物学研究所附属再生実験動物施設、iPS細胞研究所附属動物実験施設、ヒト行動進化研究センター人類進化モデル研究センター

動物種ごとの飼養数（年間平均飼養数）（令和6年度）

（頭数）

動物種名	文学研究科	理学研究科	医学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	人間・環境学研究科	情報学研究科	生命科学研究科	化学研究所	医生物学研究所	複合原子力科学研究所	iPS細胞研究所	野生動物研究センター	総合博物館	フィールド科学教育研究センター	ヒト行動進化研究センター	国際高等教育院	環境安全保健機構	高等研究院	合計	
マウス	0	11	52,385	5,196	353	1,397	96	0	4,496	0	14,312	370	7,803	0	0	0	4	0	63	1,842	88,328	
ラット	0	5	2,956	5	0	0	0	0	0	0	71	16	185	0	0	0	0	0	0	0	0	3,238
スナネズミ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
モルモット	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
ハムスター	0	0	58	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68
デグー	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
ウサギ	0	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	56
イヌ	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
ブタ	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ヒツジ	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
ウシ	0	0	0	0	0	137	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	137
サル類（類人猿除く）	16	0	77	0	0	0	8	0	0	0	10	0	16	0	0	0	1,165	0	0	0	0	1,292
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	0	14	0	0	0	0	68
鳥類	21	274	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	2	309
爬虫類	0	538	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	538
	45	828	55,542	5,201	353	1,548	104	0	4,496	0	14,403	386	8,005	62	0	0	1,183	0	63	1,844	94,063	

年間平均飼養数 延べ飼養数÷365日（少数点以下切り捨て）

動物種ごとの実験動物使用数（令和6年度）

（頭数）

動物種名	文学研究科	理学研究科	医学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	人間・環境学研究科	情報学研究科	生命科学 研究科	化学研究 所	医生物学研 究所	複合原子 力科学研 究所	iPS細胞研 究所	野生動物 研究セン ター	総合博物 館	フィールド科 学教育研 究センター	ヒト行動進 化研究セン ター	国際高等 教育院	環境安全 保健機構	高等研究 院	合計
マウス	0	186	81,563	18,948	2,827	5,554	20,096	0	17,804	0	39,359	2,756	25,663	0	0	0	72	0	5,378	4,350	224,556
ラット	0	166	7,055	115	6	32	252	0	0	0	459	144	651	0	0	0	135	0	0	0	9,015
モルモット	0	0	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38
ハムスター	0	0	120	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	130
デグー	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
ウサギ	0	0	129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	143
イヌ	0	0	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47
ブタ	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49
ヒツジ	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
ウシ	0	0	0	0	0	189	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	189
サル類（類人 猿除く）	43	0	133	0	0	0	2,920	0	0	0	10	0	15	0	0	0	2,953	0	0	0	6,074
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	267	0	0	165	0	0	0	432
鳥類	9	10,050	840	0	0	182	0	0	0	0	0	0	0	192	0	0	0	0	0	37	11,310
爬虫類	0	2,379	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,409
	58	12,781	89,974	19,063	2,863	5,968	23,268	0	17,804	0	39,838	2,900	26,343	459	0	0	3,325	0	5,378	4,387	254,409

動物実験使用数（例）1頭(匹)を2回の実験に使用したとき2頭(匹)と計上（延べ使用数）